

中北海道

現代俳句協会

会報

100号

令和6年
4月2日発行

逢いたい気持ち詠った「住の江の岸に寄る波よるさへや夢の通ひ路人目よくらむ」では、作者が夢の中でさえ人目を避ける自分に驚いていると解釈し、そこに詩の発生源があると指摘する。掛詞や



ぬらりひよんの伝言

銀化 栗山麻衣

先日ぬらりひよんに会った。海坊主のようなアレである。いわく「今年は紫式部が大河ドラマの主人公なんだから、おまえも源氏物語くらい読め」とのこと。漫画は読んだが、原作そのものは難しそうなので、とりあえず昨年刊行された小池昌代訳「百人一首」(河出文庫)を開いてみた。

百人一首は平安から鎌倉にかけての百人の和歌を一首ずつ収めたアンソロジーで、現在はあるた遊びでなじみ深い。選者は藤原定家とされるが、近年は別人の可能性も指摘されているそうだ。

本書はその百首を詩人である小池が読み解いたもの。それぞれの作品について、その歌を翻訳した現代詩と、歌の技巧や背景を説明し、場面を想像する散文が付く。

音韻、切れ、五感を総動員した表現……。恋の歌が多いが、出世できぬ辛さや逆縁への嘆きも歌われ、三十一文字に込められた重層的な意味にハッとさせられる。

小池は原歌と現代詩、散文の三位一体で「詩」を目指したという。ここでいう「詩」は「言葉と言葉が関係しあって生まれる何か」で「言葉にはならない純粹な要素」と定義されている。

詩という意味では、俳句も全く同じだと思う。百首を読み進める際、千年も昔の人々の悲喜こもごもがありながらも懸命に生きる姿勢や表現への情熱、小池との時を重ねた共鳴ぶりに励まされる感覚があった。句作や鑑賞にすぐ生かせるわけではないが、さまざまヒントも隠されている。

気が付けば中現俳会報は百号。あのぬらりひよんにまた会った際には、百号記念にあたり百人一首を読み、百ほどの発見があったと自慢してやろうと思う。アレはもしかしたら百人一首、真の編者だったのかもしれないが。

中北海道現代俳句協会総会の記

中北海道現代俳句協会副会長

石 本 雪 鬼

R6. 2. 3
於 かでる2・7

二月三日（土）、十時半から、かでる2・7で総会が開かれた。当日は雪の影響に加え、札幌地下鉄、東西線の事故の影響もあったが、二十三名の参加者は委任状を加え六十四名となり、十一月末の会員総数百八名に対する過半数であり、総会が成立することを司会のFよしと氏から報告された。続いて議長に石井美髯氏を選出し、議事に入った。

令和五年度の事業報告は、応募二十篇から亀松澄江氏の「ざわめく」が第二十三回中北海道現代俳句賞の正賞に選出されたこと、定期総会は各議案がすべて承認を得たことが報告された。令和五年度北海道現代俳句大会（中北海道現代俳句協会主管）は堀田季何氏の「音なの俳句」と題する講演があり、大会投句は六百十二句に上った。俳句研究交流会については十名の初参加者があり、以

降の入会につながったこと、第二十四回中北海道現代俳句賞に十四編の応募があり、安田中彦氏の「祝祭」が選ばれたことの報告があった。

会計報告では経費の値上がりによる厳しい収支状況が報告された。対策として会員を増やす努力を続けること、加えて幅広い意見交換と、参加して楽しい新事業を企画実施することで増収にもつなげていく提案があり、検討することが決まった。

新年交流会はポールスターホテルのビュッフェへと移動して開催。隣の厨房で調理された北海道産の食材が並べられ、目の前で仕上げた出来立てのホタテのバター焼や特製オムライスも頂け、ランチタイムに始まった宴席はまだ足元の明るいうちに終了した。

札幌開催だった昨年の北海道現代俳句大会には、道北、道東、道南からも足を運んでくれた句友と懇親を深められた。今年は函館で開かれる大会準備はすでに始まり、対馬康子氏の講演会が決定している。六月九日はみなさまと函館で会えることを楽しみにしている。

第四十四回鮫島賞 北海道俳句協会

去る一月十一日に行われた北海道俳句協会の各賞選考会に於いて、中北海道現代俳句協会会長・五十嵐秀彦氏の第二句集『暗渠の雪』が、満場の一致で第四十四回鮫島賞を受賞し、この度の総会にて報告されました。おめでとうございます。ご本人の了解を得て、以下に抄録を掲載します。

『暗渠の雪』 五十嵐秀彦

青嵐五十嵐秀彦屹立

序句 黒田杏子

みなおなじ貌をして逃水にをり
桜散りくる風の音風の音
夕立来る苜蓿堂を出でしとき

愛憎のダリア暮れゆく他郷かな
ことづての付箋を拾ふ青葉風
鬼芥子や髭剃るたびに老けてゆく
暗室に父の真夏のうごめける
極道を雪の埠頭に送りけり
寒燈や生きる途中の転轍機
禅学の四方八方ふきのたう
風花や古書肆に言語軟禁す
五体貧しく雪の暗渠となりぬ
翼が邪魔だ秋抱きしめるときも
辺境に歌ありけものめく雪野
白鳥帰る革命は婚期を過ぎて
冠省の冠のふしあな穴涼新た
秋時雨天使見るため眼を洗ふ
雪の朝死者には借りがあるのです
雪明りしづかにたたり神ばかり
つぎの世の指をからませ苗木市
レシートに君の名を書く羽蟻の夜
四つに割るメロンに星の匂ひして
脇の下に黄泉ほの光る良夜かな

けあらしや悪事のごとく人を呑み
炎天や母さん死はまだ怖いですか
冷蔵庫死者の家より運び出す
踏切は植民の鐘浜蓮華
マタイ伝二十七章さらら這ふ
護謨靴の似合ふ男と座禅草
書齋憂し立方体のこの海市
あぢさゝや髭伸びたから逢いひにゆく
連翹花血の沫かくもよごれやすし
君よその噛まれどころがよくない虻
降り霽れる雪原われら時を埋め

(青山醉鳴 抄出)

書肆アルス・定価二一〇〇円(税別)



令和6年度中北海道現代俳句協会 事業計画（案）

日 程	事 業 計 画	
1月27日(土)了	第24回中北海道現代俳句賞 選考委員会かでのる2・7にて開催 応募総数14編 <受賞作「祝祭」・安田中彦氏に決定>	組織活動部 顕彰係
2月3日(土)了	令和6年度定期総会かでのる2・7にて開催（新年交流会・ホテルポールスター札幌）	事務局
4月7日(日) 実施予定	第33回中北海道現代俳句大会かでのる2・7にて開催予定（懇親会・ホテルポールスター札幌） 講演：石川青狼氏（東北北海道現代俳句協会会長） 演題：「未定」	事業部
8月24日(土) 実施予定	俳句研究交流句会 開催時刻その他詳細調整中かでのる2・7 札幌市中央区北2西7	組織活動部
8月より	第25回中北海道現代俳句賞 募集開始 締切：12月15日(日) 当日消印有効	組織活動部 顕彰係
そ の 他	会報第100号：4月、第101号：8月、第102号：12月発行 「一人一句集」4月発刊（今号同封） 幹事会年6回実施予定（奇数月） 三役・顧問・中北海道現代俳句賞選者の会年1回実施予定	広報部 事務局

現在の役員・幹事構成

役 員

会 長 五十嵐秀彦
副 会 長 石本 雪鬼 亀松 澄江(事業部兼任)
事務局 長 F よしと
監 査 平尾 知子 齋藤 雅美
顧 問 辻脇 系一 横山いさを (新)
永野 照子 (新)

中北海道 現代俳句賞選者

五十嵐 秀彦
石 川 美智子
齋 藤 雅 美(新)
瀬 戸 優理子
松 王 かをり

幹 事

会 計 高島 葉子
総 務 部 阿部 満子
菅井美奈子 (組織活動部顕彰係兼任)
事 業 部 中田 琢志 (総務部兼任)
遠藤由紀子 金子真理子
組織活動部 原田 昌克 鹿岡真知子
近藤由香子 瀬戸優理子 中田真知子
広 報 部 青山 酔鳴 廣田 和久

中北海道 現代俳句協会 会費納入の御願い

日頃のご協力に感謝いたします。中北海道現代俳句協会の会費納入は振込となっております。手数料のご負担もお願い申し上げます。

第24回 中北海道現代俳句賞受賞作品



受賞者 安田 中彦氏 プロフィール

1956年 石狩市生まれ、札幌市在住

1999年 「花曜」入会、2005年「花曜」解散

2008年 「香天」同人

2017年 句集『人類』（邑書林）

2020年より「たんね句会」世話人・札幌市手稲区

祝 祭

安田 中彦

陽炎のやうな私に現住所
盗み読む秋夕暮の悪書かな
蝶ほどに小さき地雷や蝶をらず
甘柿が平時の喉通るなり
野遊びや貴き人は生きのこる
銀杏散る海馬から知を零すごと
みんなみの餓死の兵士に島の蠅
秋思ともちがふココアの膜吹きて
嬰兒の尿する力大南風
いくさうた唄ふ者から紅葉せよ
魂とポプラの絮の飛ぶ日なり
小米雪死者の中なる親知らず
いつせいに謝罪極暑のをとこたち
マスクして流民追ひ立つるも遊び
二枚の掌原爆の日の蚊を打てり
遠海のくぢら跳ねたか偏頭痛
群生は戦の庭の曼珠沙華
祝祭のやうに雪降る鹿の死へ
ドードーの穴を食らふや秋の夢
探梅のわたしがゐないうるふ年

令和5年度 第24回 中北海道現代俳句賞一次選考結果

番号	作品名 (作者名)	五十嵐秀彦	石川美智子	齋藤雅美	瀬戸優理子	松王かをり	点数
2	祝 祭 (安田中彦)	○	○		○		3
5	不確かな類似 (Fよしと)		○	○			2
7	擬 態 (坂本真紅)	○		○	○		3
8	初恋のアリス (及川和弘)					○	1
9	一 馬 力 (平倫子)					○	1
11	風 の 葉 に (近藤由香子)		○			○	2
13	時 給 千 円 (横山航路)	○		○	○		3

選 考 経 過

選考委員長 松王かをり

一月二十七日、かでる2・7において、選考委員五名全員出席のもと選考委員会が実施された。

応募作品は十四編、昨年の二十編からかなり数を減らした。しかし、このうちの二編が初めての挑戦、かつ会員外からの応募であったことを思うと、この賞が閉ざされたものではないことを実感した。

選考委員は、選考会に先立って、それぞれが三編を選んでいたが、その一次選考結果(別表参照)に基づいて選考会を進めていった。今年は、この時点では、飛び抜けた評価を受けている作品はなかった。

まず、各選考委員が、推薦の三編お

よび、それ以外に注目した作品について述べた後、応募作品を一編ずつ取り上げ、時間をかけて丁寧に意見を交わし合った。

その議論の中で、決戦投票を行う作品を絞り込んでいったのだが、そこで残ったのが、「祝祭」「擬態」「風の葉に」の三編である。

その後、一位三点、二位二点、三位一点で投票を行った結果、「祝祭」十二点、「擬態」九点、「風の葉に」九点となった。十二点を獲得し、一位となった「祝祭」は、五名の委員のうち三名が一位に推し、一位としなかった他の二名の委員も、「祝祭」を受賞作とすることに同意して、受賞作が決定した。

「祝祭」の作者は安田中彦さん、応募六回目で、受賞に輝いた。

力作が揃った

五十嵐秀彦

私が一次選考で選んだのは②「祝祭」

⑦「擬態」⑬「時給千円」の3作品。

②「祝祭」 安田中彦

詩性が高く、大胆な飛躍とレトリックの巧みさで説得力のある句が多かった。

蝶ほどに小さき地雷や蝶をらず

二枚の掌原爆の日の蚊を打てり

ドードーの穴を食らふや秋の夢

いくさうた唄ふ者から紅葉せよ

探梅のわたしがぬないうるふ年

戦争をモチーフとした句が多かったが、時事的なものに終わらせずに、心に纏わりつくような不安感として表現されているのがすばらしい。「蝶ほどに」の句は選考委員から季語の問題を指摘されたものの、そこに在るべきはずの蝶がないという表現として幻視の蝶の存在が私には明瞭に感じられた。あ

えて季を問題とするならば、無季としても私は取りたい句だった。

⑦「擬態」 坂本眞紅

前半の句に感心するものが多かったが、後半がやや弱かったかもしれない。

しかしアイロニーに満ちた句は魅力的であった。

風船飛んだ前職は象使い

磯巾着どの手を悪に染めたやら

沖繩の地図は別梓黒日傘

永年勤続表彰もずの贅

〈天道虫なじみの店に星つける〉〈水遣りの報酬はあさがおの種〉のような句は、できてはいるがこの作者としてはやや安易に流れてしまったようで残念。

⑬「時給千円」 横山航路

若い作者だろうか。20句すべてをバイトというテーマの連作にし、通して読むとそこに物語性が浮かび上がる。そこに魅力を感じた。

花過ぎのたとへば永遠の皿洗ひ
夏痩せて時給千円なりの覇気

風邪の日のバイトの暇よ柵掃除

まかなひの皿欠けてゐる師走かな
飲食店でバイトする日常を飾らず詠

んでいて、そこに屈折した思いにもじみ出る佳作と思った。しかし連作としてよくまとまっていながら一句の独立性に弱さを感じた。そこが最後まで推しきれないところだった。

今回の応募作はどれも個性的で3作品を選ぶのが難しかった。この他には

「風の葉に」の〈まひまひの背に刻を巻き戻す〉〈寄辺なき夜風のすだく大花野〉

〈手袋を脱いで訣れし手をあらふ〉は良かった。「不確かな類似」の〈八月の森に自由のバクテリア〉〈人間にバラードを着せ冬隣り〉など良かったものの、明らかかな誤字の句があったのは残念。「鮭遡上る」も力作。〈くるぶしに波の

記憶や夏布団〉〈鐘あれば撞く秋虹を
とほくして〉などは優れた詩と感じた
ものの、説明が必要な名詞が散見され、
それが詩として効果をあげていないと
ころに疑問を感じた。

最後は「祝祭」「擬態」「風の葉に」
の三作で投票をし直し、高点を得た「祝
祭」に受賞が決まった。レベルの高い
作品を応募してくれた作者の安田中彦
さんにお礼とお祝いを申し上げたい。

選考を終えて

石川美智子

令和五年度、中北海道現代俳句賞は
安田中彦氏の「祝祭」に決定した。
おめでとうございます。

一次選考では次の三篇を選んだ。

②「祝祭」

安田中彦

陽炎のやうな私に現住所

二枚の掌原爆の日の蚊を打てり

探梅のわたしがゐないうるふ年

眩きがそのまま俳句になっっているよう
な印象を受けた。多分作者は座り心地の
少し悪い愛用の椅子に凭れながら詩を紡
いでいるのだろう。現実と非現実が交錯
する不思議な空気感を作っている。

二句目「二枚の掌」は秀逸。肉体の
一部である手は蚊を打つことは出来て
も原爆の日は打てない。消せない。手
ぶらな手が残される。

⑪「風の葉に」

近藤由香子

隧道の闇やはらかく花さびた
前略の後が続かず露律

イマジン風の葉にして寒夜

全句を通して詠い方に躊躇がない。
作者の中で素材が充分に咀嚼されて
いるからであろう。

三句目「イマジンを」は流れるよう
な韻律の中に作者の屈折した心の動き
を重ね「寒夜」の二語で完結。そこに

は作者の祈りさえ見られる。「花さびた」
「露律」など季語の選択も的確。

⑤「不確かな類似」

Fよしと

晩夏光硝子細工の踊り出す
部屋中に月の匂いのレモンかな

一葉忌餃子の羽根の薄き縁

穏やかな語り口に好感が持てる。俳
句を楽しんでいる。

三句目〈一葉忌〉は感銘を受けた。
餃子の薄い縁に樋口一葉を重ねる。そ
こにはヒリヒリと痛い彼女の文学、生
活、恋愛が立っている。この焦点の絞
り方に作者の個性と感性を見る。

その他魅かれた作品としては坂本眞
紅さんの「擬態」、及川和弘さんの「初
恋のアリス」、横山航路さんの「時給千
円」がある。

十四作品とも个性的であり選考する
ことが難しかった。その意味でも勉強
させて頂いた。また来年度はより多く

の応募を期待している。

選考所感

齋藤 雅美

応募された十四編の作品から優秀作を選定するのは簡単ではなかったが、一方で多くの佳句に接することができ、興味をそそられる楽しい作業でもあった。

一次選考で以降の三編を選んだ。

⑤ 「不確かな類似」 Fよしと

不確かな類似重なる熱帯魚

爪先に檸檬をおかれ自白する

人間にバラードを着せ冬隣り

同じ色・模様の熱帯魚が重なり合っ
て泳ぐ水槽、悪行の証拠の如き檸檬、
古コートのようなバラード、これら三
句に限らず作品全体に通底するような
不確かな類似性が世の中の曖昧さや妖
しさを暗示しているようでこの作品に
奇妙な魅力を感じた。ただ、文字の間

違いと俳句の並べ方の不備がなければ
より評価は上がったと思う。

⑦ 「擬態」 坂本眞紅

沖繩の地図は別枠黒日傘

お遍路の頭陀袋から傷林檎

永年勤続表彰もずの贄

沖繩の置かれている不条理性、まるで
人の心のような傷林檎、永年勤続の証の
異様さなど、ウィットやアイロニーの
ちりばめられた作品が多く興味深く読ん
だ。一句一句がよく考えられて作られて
おり、読み応えのある内容と深さがある。
あくの強さを指摘する意見もあったが、
筆者はこの作品の特徴として可とした。

⑬ 「時給千円」 横山航路

夏痩せて時給千円なりの覇気

冷房や詩を殴り書くレジの裏

クリスマスソングの店の床を拭く

夏痩せするバイト生活の悲哀、レジの
陰で書いた詩、クリスマスの夜の床掃除

など、時給千円のアルバイト生活という
テーマでまとめられた作品。四季折々の
職場における発見や作業、心の移ろいな
どが、メランコリックなスパイスも効か
せながら淡々と綴られている。アンニユ
イな雰囲気も魅力と思う。ただ、テーマを
有した連作としては全体的に優れている
反面、一句一句のレベルでは平凡な句の
多いのが残念である。今後さらに研鑽を
積んでいただき個々の句の充実した新し
い連作を読ませていただきたいと思う。

今回の中北海道現代俳句賞は選考委
員の評価が分散し、一次選考の三点句
と二点句が五作品となる激戦であった。
各委員の様々な意見表明と議論を経て
最終的に「祝祭」が受賞作に決定した。

② 「祝祭」 安田中彦

陽炎のやうな私に現住所

魂とポプラの絮の飛ぶ日なり

探梅のわたしがあないうるふ年

この作品について筆者は反語的な措辞の多いことに抵抗があり一次選考の三作には入れなかった。しかし、陽炎、ポップラの絮、探梅の句のような自身の存在の儚さを季語に託した作品は感傷的になりすぎず良い意味での軽さを有した句で、十分に受賞に値すると思う。

挑戦と自選力

瀬戸優理子

今年の応募作は十四編。昨年に比べ数は減少したが、新たな息吹を感じるいくつかの作品に出会えた。

一次選考で票が分散したのは、それだけ多様で独自の魅力を湛える作品が揃ったことを示す。と同時に、二十句のレベルを揃えて統一した世界観を描き出し、多彩な選考委員を納得させる作品に仕上げる難しさも表しているよう。

タイトルの付け方、句の並び順、勝負

句といわゆる「平句」的な句の出現バランス、駆使している俳句的レトリックの幅、そして作品に込めた作者の熱量。一句単位の投句ではない本賞においては、二十句で新たな地平を切り拓こうとする挑戦の気概と厳しい自選力が必要。わずかな差が結果を左右したかもしれない。

私が一次選考で選んだのは②「祝祭」

⑦「擬態」⑬「時給千円」の三篇。僅差の次点で⑪「風の葉に」にも注目。

各作品より共鳴句を挙げる。

②「祝祭」

安田中彦

魂とポップラの絮の飛ぶ日なり

いつせいに謝罪極暑のをとこたち

二枚の掌原爆の日の蚊を打てり

小米雪死者の中なる親知らず

祝祭のやうに雪降る鹿の死へ

「戦争」「死」を通層低音として響かせつつ、「明るい虚無」を感じさせる句

群で、「詩」と「俳」のバランスが絶妙

と感じた。

「祝祭」のタイトルを全編に響かせて読むと、時の権力者への痛烈な皮肉と自らも含む俗世に生きる卑小な存在への慈しみが浮かび上がってくる。〈野遊びや貴き人は生きのこる〉へマスクして流民追ひ立つるも遊びは解釈をめぐり選考委員の間で議論となったが、やや乱暴な表現なれど連作の文脈において「反語的」に詠まれていると捉えることが可能で、作者の意図は汲めると判断された。ご受賞おめでとうございます。

⑦「擬態」

坂本真紅

風船飛んだ前職は象使い

磯巾着どの手を悪に染めたやら

永年勤続表彰もずの贅

アナロジーのセンスを生かした飛躍の大きさ、現代語で鮮明に言い切る胆力が魅力。「過剰さ」をコントロールしきれなかった句が惜しまれる。

⑫ 「時給千円」 横山航路

花過ぎのたとへば永遠の皿洗ひ

夏痩せて時給千円なりの覇気

冷房や詩を殴り書くレジの裏

若者のバイト生活をテーマに編んだ瑞々しい一連。「時給千円なりの覇気」の措辞は力がある。テーマに寄せすぎた一句として立つには弱い句も散見されたのが勿体なかった。

⑪ 「風の葉に」 近藤由香子

まひまひの背に刻を巻き戻す

前略の後が続かず露葎

虚と実のバランスが良く、随所に巧さを感じさせる句群。従来の俳句的情感の中だけで完結しない句が混じると、巧い句が更に輝くと感じる。

その他、〈部屋中に月の匂いのレモンかな〉(Fよしと) 〈かき氷悔しき時間崩しけり〉(寫田康之) 「部屋の隅にフリスク残暑の欠片」(及川和弘) 〈冬ざ

れや蝦夷と呼ぶとき舌に棘〉(青山醉鳴)にも注目した。

選考所感

松王かをり

応募数は、前回の二十編から十四編へと数を減らしたが、内容的には意欲的な作、熱意あふれる作が多くあり、まずそのことに御礼を申し上げたい。ただ、表記ミス、誤字等が散見されたことは残念である。せつかくの作品、応募する以上は、ぜひしっかりと見直していただきたい。

一次選考で、私は、⑪「風の葉に」⑧「初恋のアリス」⑨「一馬力」を選んだ。

⑪ 「風の葉に」 近藤由香子

まひまひの背に刻を巻き戻す

喪心を放つ原野はらのの烏瓜

手袋を脱いで訣れし手をあらふ

「風の葉に」は、今回、私がずっと一位に推した作品である。

一句目、かたつむりの殻に時の流れ

を感じ取り、「刻を巻き戻す」と表現した。

まるでタイムスリップして、古生代にまで連れていかれるようである。

二句目、喪った悲しみを「烏瓜」に託

した一句。烏瓜の朱色は、深い哀しみの赤である。

三句目、「訣」は、再び会

えない訣れをも思わせる漢字。帰宅後、

その人とのこれまでの時間を愛おしみ

ながら手を洗っているのだろう。日常

の景を素材としつつ、季語の力を充分

に意識して、詩へと昇華させる巧みな

詠みぶりを、私は高く評価した。

⑧ 「初恋のアリス」 及川和弘

伝書鳩朝焼けのエラーを探す

乱反射する夢金魚鉢の傷

一句目は、応募作品冒頭の句。「朝焼け

けのエラーを探す」というフレーズか

ら、人工的に作られた朝焼けを思わせ、

不思議な世界に引き込まれる。二句目の

「乱反射」の夢と「金魚鉢の傷」との取り合わせも魅力的。ただ、句またがりの破調が多過ぎて、破調が効果的に使われていないところが残念であった。

⑨「一馬力」 平 倫子

亀鳴いて万年一年生を呼ぶ

雪晴風扉がおもいジュンク堂

右のような句に注目した。「亀鳴く」という虚の季語を、あれば「一年生を呼んでいるのだと。「亀は万年」という故事成語も詠み込んだ愉しい一句。二句目、やつと雪が止んで出かけたジュンク堂書店、それでなくとも重い扉が、風に押されて尚更に。「雪晴風」という季語の効いている一句。ただ、読み解くのに専門知識の要求される句もあって、そこが評価の分かれるところとなった。

②「祝祭」 安田中彦

祝祭のやうに雪降る鹿の死へ

受賞作となった作品であるが、〈野遊

びや貴き人は生きのこる〉〈みんなみの餓死の兵士に島の蠅〉といった冒頭からの句に躓いて、一次選考の三編には取らなかつた。ただ、選考会でさまざま意見を聞くうちに、戦争と死をテーマにしながら、明るい虚無を湛えた句の魅力に納得し、受賞作とすることに賛同した。ご受賞おめでとうございます。

右の四編以外では、アルバイト生活の連作「時給千円」の〈夏痩せて時給千円なりの覇気〉、「鮭遡上る」の〈くるぶしに波の記憶や夏布団〉といった作品にも注目した。

中北海道現代俳句賞応募について 組織活動部顕彰係からのお願い

- ◎応募用紙と作品用紙の記入欄書漏れやチェック欄の☑漏れにご注意ください。
- ◎作品を郵送の際には入れ忘れのないように、応募用紙と作品、応募料を再度ご確認ください。

訂 正

・ 会報第99号 ・

・ 関係各位には失礼の段を心よりお詫び申し上げます (広報部)

一頁上段	草樹・雪華	林 冬美
一頁下段	雪ばんば、雪ばんば、雪を背負いておいでやよ	
二頁下段	薫風に翼あずけて空の旅	近藤ゆたか
五頁中段	踏まれゆく雪が水だという虚実	村上 海斗

〈 第33回 中北海道現代俳句大会のご案内 〉

- 1 日 時 令和6年4月7日（日）13時より
- 場 所 かでる2・7 710号室 札幌市中央区北2条西7丁目1
TEL 011-204-5100
- 会 費 大会費：1,000円 当日受付にて申し受けます（学生無料）
- 2 講 演 石川 青狼 氏
（現代俳句協会評議員・東北海道現代俳句協会会長・釧路俳句連盟会長）
- 3 演 題 「河東碧梧桐の俳句と書字」
- 4 講 評 道内外主要作家
- 5 出句応募は終了いたしました・講演会のご観覧は可能です
- 6 問 合 先 〒063-0811 札幌市西区琴似1条1丁目2-38 琴似コート614号室
金子真理子 TEL 011-644-5193
- 懇 親 会 ホテルポールスター札幌（中央区北4条西6丁目）にて
午後4時半から
懇親会費 6,000円 当日大会受付にて申し受けます
※懇親会のキャンセルは当日3日前まで（以降会費を頂戴します）
- 当日は第24回中北海道現代俳句協会賞の顕彰も併せて行われます

〈 北海道立文学館 特別展 〉

虚子・年尾と北海道

— 題字 稲畑廣太郎 —

高濱虚子生誕150年の今年、北海道立文学館では「虚子・年尾と北海道」と題して、二人の俳人が北海道にしるした足跡と「ホトトギス」に関係する道内作家たちの活躍などを紹介します。会期内には北海道ホトトギス会重鎮のインタビューや当会会長五十嵐秀彦の見どころ案内、虚子直系二氏による道内初の対談を企画しております。

会 期：令和6年4月20日～6月9日（月曜休館）65歳以上無料

企画①：4月21日（日）13時半（文学館地下大講堂）

インタビュー「虚子・年尾とわたし」荒船青嶺・佐藤宣子 両氏

企画②：4月27日（土）13時半（文学館地下大講堂）

「展示見どころダイジェスト」五十嵐秀彦氏

企画③：5月18日（土）13時半（かでる2・7（北2西7）710号室）

対談「虚子の心を引き継いで」稲畑廣太郎・星野高士 両氏

問合先：北海道立文学館（中島公園1の1）TEL 011-511-7655（丹伊田）

礎

杉野一博

略歴 昭和六年（令和四年、享年九一歳）昭和三年「水下魚」編集同人「四季」編集同人を経て「髯」を創刊し代表、後に主宰。句集『待景』『肋木』他。著作『季語の林』。函館俳句協会会長、北海道新聞俳句賞審査委員・現代俳句協会名誉会員。北海道新聞俳句賞、鮫島賞受賞。

木の箱の天地無用の春届く
口シア十字架から海岸線五月
海を張る七月いよいよ飛ぶか象
行秋のランプの蕊の波の音
冬の星になりゆく時に立つてをり

江草一美 抄出

〔青のフロント〕 佳句抜粋

整へて来て地吹雪に巻き込まれ

荒船 青嶺

飴色の靴型ならべ日脚伸ぶ

青山 醉鳴

春泥の轍に靴跡の淫ら

増田 植歌

靴底のガムは外れず春来る

石井 美髯

靴擦れを耐えて回りに雪まつり

梨山 碧

圏外の流水欵けり渴きけり

五十嵐秀彦

「青のフロント句会」 問合先：五十嵐秀彦 TEL 011-852-701
偶数月第2土曜日 13～16時 会場：かでの2・7、席題有・当季雑詠3句

幹事会報告

令和6年1月18日(木) かでの2・7 (610号室)

- 1 令和6年度総会及び新年交流会議案（事務局）
- 2 中北海道現代俳句賞（組織活動部）
- 3 「一人一句集」2024年版（事務局・広報部）
- 4 会報100号（広報部）
- 5 第33回 中北海道現代俳句大会（事業部）
- 6 令和5年度俳句交流研究句会（組織活動部）
- 7 その他 会員動向他（事務局） ●出席者15名

令和6年3月21日(木) かでの2・7 (610号室)

- 1 第33回中北海道現代俳句大会（事業部）
- 2 第24回中北海道現代俳句賞（組織活動部 顕彰担当）
- 3 令和6年度 俳句研究交流句会（組織活動部）
- 4 会報100号（広報部）
- 5 「一人一句集」2024年版（事務局・広報部）
- 6 その他（会長・事務局）
- 7 新会員推薦／募集（事務局） ●出席者13名

令和6年度 道内現代俳句大会のご案内

第34回 北北海道現代俳句大会

- ◇日時：令和6年4月14日（日）13時より 大会費 1,000円
- ◇会場：ときわ市民ホール（旭川市5条通4丁目）TEL 0166-23-5577
- ◇講演：松王かをり氏 演題「藤谷和子を語る」－戦後俳句をめぐって－
※出句は締め切りました
- ◇問合先：〒078-8320 旭川市神楽岡10条1丁目2-2 加藤ひろみ方 TEL 0166-65-0820

第30回 東北海道現代俳句大会

- ◇日時：令和6年4月21日（日）14時より 参加費無料
- ◇場所：釧路市生涯学習センター602号室（釧路市幣舞町4-28）TEL 0154-41-8181
- ◇講演：石川青狼氏 演題「碧梧桐と幣舞会」
※出句は締め切りました
- ◇問合先：〒088-0612 釧路郡釧路町雁来1-34 西村奈津方 TEL 0154-36-7823

第33回 北海道現代俳句大会のご案内 (南北海道現代俳句協会主管)

- 1 日 時 令和6年6月9日(日) 午後1時30分から
 2 場 所 ホテルリソル 3階 美花
 函館市若松町6-8 TEL 0138-23-9269 (函館駅から徒歩5分)
 3 会 費 大会費:1,000円 当日受付にて申し受けます
 4 講 演 特別講師 対馬康子氏 現代俳句協会副会長
 3 演 題 「斌雄・青邨・明人-こころの高まり」※会員に関わらず聴講可
 5 問合先 南北海道現代俳句協会 中西芳之 TEL 090-693-5237

※ 出句および懇親会の申込みは受付終了しました

※ 懇親会出席の取消しは当日3日前までとし、以降は会費6,000円を頂戴します

※ コロナ感染状況により変更になる場合があります

会 員 動 向

〈入 会〉 及川 和弘
 かまだ純子、白洲 アテナ
 梨山 碧、藤原 ハルミ
 三谷 なな子、本村 なつみ
 前田 未来子、柳井 ちひろ

〈俳号変更〉
 あおのめ → 越後 あお

〈地区移動〉 宮原 青佳

〈退 会〉 悠 とし子
 柏田 未子、佐藤 紀代子
 高垣 美恵子、伊藤 津良

〈名誉会員〉 白井 千百

〈逝 去〉
 鈴木 きみえ、霜田 千代麿

会員数109名 (R6年3月現在)

◇一般社団法人現代俳句協会◇

〈三十年永年会員〉

信藤 詔子、菅原 湖舟
 長野 君代、平尾 知子

発行人 五十嵐 秀彦

発行所 中北海道現代俳句協会

〒064-0952 TEL 011-641-1007

札幌市中央区宮の森2条8丁目1-18

F よしと方

編集人 青山 酔鳴

〒061-1354 TEL 090-3398-3457

恵庭市島松旭町4丁目9-1

◆事務局だよ!

二月三日の本年度の総会はみなさまのご協力により滞りなく終了いたしました。たいへんありがとうございます。このたび五十嵐秀彦会長の句集『暗渠の雪』が第四十四回鮫島賞を受賞しました。また会報前号に掲載された各賞の受賞について、みなさまの才能と努力に敬服します。今月は中北海道現代俳句大会を開催します。お陰様でたくさんのご投句を頂き、心より感謝します。開催日には多くのみなさまのご参加をお待ちしております。このほか、左記四名の方々が三十年永年会員となられ、現代俳句誌十二月号に記念作品が掲載されております。ぜひご覧ください。(Fよしと)

編集後記

大雪や記録的な寒気かと思えばGW並の暖気が追いかけて、年々北海道の冬が凄まじいことになっていきます。春とはいえ、みなさまご体調にご注意なさってください。道立文学館の特別展「虚子・年尾と北海道」は五十嵐会長と札幌ホトトギス会会長増田植歌さんが尽力された企画です。貴重な資料の展示のほか、稲畑廣太郎・星野高士両氏の北海道初対談などにも是非ご参加ください。次号よりは会報をより見やすい紙面にしたり、リニューアルを考えております。また九十九号では誤植を連発しましたことをこの場をお借りしてお詫び申し上げます。(青山酔鳴)